

姫高支部便り

當支部も發會してから既に第三年を迎えました。大體が姫高生だけの會であるので互に遠慮もなく例會の時など何時も談笑に花が咲き随分愉快にやつて居ります。

發會以來始めの一ケ年は毎月講演會を開き主として支部長の大島教授に御話を願ひました。その範圍は太陽、遊星、月から經度緯度に涉つて居ります。山本先生、水野副會長それからジェンキンス先生に來ていたゞいたのも此の頃です。基礎的な一年を終ると愈々觀測會を始め、アマチュア天文家の本領を發揮し始めました。舊式なツアイスの十糧屈折鏡の他に會員から集めた三つばかりの小望遠鏡が我々の愛すべきインスツルメントです。一ヶ月或は二ヶ月に一回私達は夜と云ふのに學校に集まり茶を飲み菓子を食ひ、雜談と觀測に清夜を過して居ります。四季を通じて私達は造物主の面白いいたづらを見て來ました。此の上はもつと優秀な器械が欲しいと云ふので辛棒しきれず遂に宮本君と僕とで“望遠鏡を買つて下さい”と校長に頼み込みましたが、案外見込みがあるので喜んで居ります。ひよつとすると今年中に十五糧赤道儀が校庭の一角にドームと共にをさまるかもしれません。

昨年は又大分變つた事がありました。五日にはジェンキンス先生大島教授等と共に十人ばかりが花山の大ドームに憧れて參りました。故中村先生に案内していたゞいて三十糧により鮮明な星の像を見せて貰つたのも今は憶出になりました。十一月には待望して居た流星群が來て、しかも思つた様に降らず天文家を失望させましたが、その時も三木君其他の有志會員が十七日 2h から 5h まで頑張り 37 の流星を見ました。同じ月に本校の記念祭がありましたが、此の際山本先生、改發様及び廣島の中村様の御厚意と宮本君の活躍により大展覽會を開き一番盛大な展覽會だと教官生徒の間に好評を博しました。尙此の展覽會には餘り宣傳が徹底し過ぎて、“姫高天文同會に於ては今回寫眞展を開き世界に一枚しかないと云ふ珍しい寫眞をアメリカから取寄せ、又京大廣島文理大からも出品を見る筈である。其他天文器械により實驗して見せる”と物凄いい記事が大阪の大新聞に出ましたので、見に來る人からどれが世界一の寫眞だと聞かれ説明役の會員連は應接に困りました。此の世界一の寫眞と云ふのはロスの銀河寫眞の事です。以上は大きな事柄ですがその他に數回の觀測會と映畫「宇宙の驚異」映寫會及び幻燈の會をやりました。

今年は随分多數の會員が卒業するので會はどうなるのかと案じましたが、幸ひ二年一年から熱心な會員が出て來て今では我々もすつかり安心して居ります。近頃の例會もすつかり二年の人がやつてくれます。(平山)

1932年 天文年鑑

希望者に譲ります。

(送 料 共 20 錢)

東 亞 天 文 協 會